

日本海周辺クロマグロ調査

(水産資源調査・評価推進委託事業 (国際水産資源))

森脇和也・山根広途・福井克也

1. 目的

日本海周辺海域に分布するクロマグロの資源評価のために必要な情報収集を行う。

2. 方法

(1) クロマグロ仔魚採集調査

産卵場推定のため試験船「島根丸」によりクロマグロ仔魚の採集を行った。採集には直径 2.0 m のリングネットを使用し、船速 2.0 ノットで 10 分間の表層曳きを実施した。調査期間は 2024 (令和 6) 年 7 月 16 日～17 日、調査海域は隠岐諸島西側の 12 点とした (図 1 左図)。

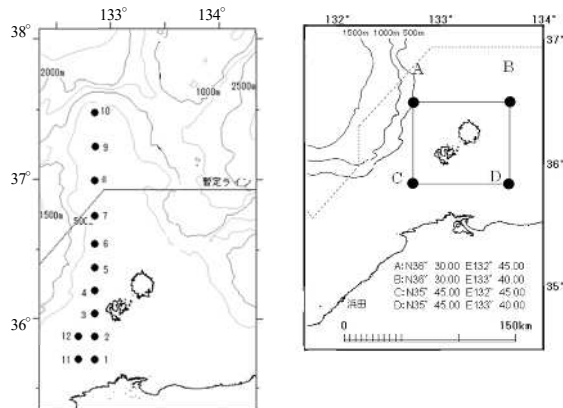


図 1 クロマグロの仔魚採集調査地点 (左) と当歳魚標識放流調査海域 (右)

(2) クロマグロ当歳魚標識放流調査

当歳魚の回遊経路推定のため試験船「やそしま」により、2024 年 10 月～11 月に隠岐周辺海域 (図 1 右図) でクロマグロ当歳魚の標識放流を行った。ひき縄釣で採捕した魚体の尾叉長を測定し、背鰭後部にダートタグを装着した後、直ちに放流した。

(3) 漁獲実態調査

市場で水揚げされたクロマグロの尾叉長測定を実施した。箱あたりの入数が分からないデータについては、速報の確認や漁業協同組合へ聞き取り調査を行い、漁獲尾数を推定した。

3. 結果

(1) クロマグロ仔魚採集調査

海上時化のため 2 定点欠測し、調査点は 10 点となった。得られたサンプルは、(国研) 水産研究・

教育機構 水産資源研究所 (以下、水産機構資源研) において仔魚の種同定と採集尾数を解析中であり、この結果は 2025 (令和 7) 年度中に判明予定である。なお、2023 (令和 5) 年に実施した同調査では、9 定点で 370 尾のクロマグロ仔魚が採集され、島根県沿岸側の 4 定点で多く採集された。

(2) クロマグロ当歳魚標識放流調査

調査期間中に計 2 回 (10 月 16 日、11 月 12 日) の標識放流を行った。採捕したクロマグロ当歳魚は計 112 尾であり、尾叉長は 280～480 mm であった (図 2)。そのうち 102 尾を放流した。なお、本調査は 2020 (令和 2) 年度から実施しており、これまでに 1 件の再捕報告 (2023 年放流個体 (計 74 個体のうち 1 個体) が 10 日後に京都府沿岸の定置網で漁獲) があった。

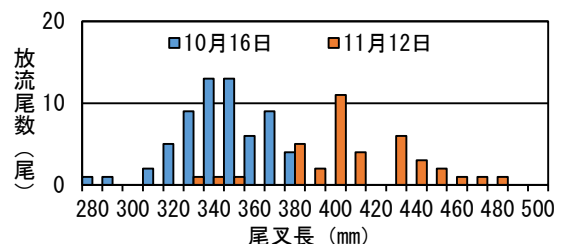


図 2 クロマグロ標識放流魚の尾叉長組成

(3) 漁獲実態調査

大田市で 2 回、海士町で 1 回、計 3 回の尾叉長測定を実施した。測定尾数は計 127 尾、尾叉長は 450～620 mm であった (図 3)。

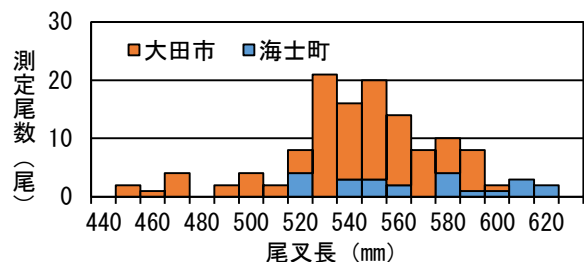


図 3 水揚げされたクロマグロの尾叉長組成

4. 成果

各調査結果を水産機構資源研に提出し、クロマグロ調査船調査報告会等でも報告した。各結果は水産機構資源研が取りまとめ、クロマグロの資源評価に利用された。